



荒尾美術協会会員

渡邊興亜さん

わたなべ・おきつぐ 1941 (昭和 16) 年生まれ、八幡台在住。大牟田美術協会・青々水彩画協会会員。好きな作品は平山郁夫が描く砂漠とラクダがモチーフの絵

「描いた絵を通して、たくさんの人に自分自身を知ってもらえる。それが絵を描く醍醐味なんです」と微笑むのは渡邊興亜さん。7年前に退職してから、百枚以上の静物画や風景画を水彩絵の具とアクリル絵の具で描いてきました。

「絵を描くのは中学生以来でしたが、もともと好きだったので、すぐに夢中になりました」。モチーフを探しながら、毎日、渡邊さんは散歩をしています。気になるものがあれば、スケッチをしたり、写真を撮ったりして、構想を練っているそうです。

「見たままを絵に描くこともあります。けれど、実際にはないものを持ってきたり、あるものを消したりと、主役を引き立てたる工夫をすることで、感動を得たり、与えたりできると思っています」

月2回の絵画サークルへの参加と、毎日2時間、家事の合間に筆を執っているうちに、絵を描くことがすっかり渡邊さんの生活の一部になりました。今までに美術展で入賞し

た作品は18にも上ります。

「美術展に足を運ぶなど、人の絵を見て、いいところは取り入れるようにしています」。現役時代は技術指導のため、さまざまな国を訪れていた渡邊さん。英語がうまくなりたいたと、英語を話せる人に張り付き、語学の習得に奮闘していた若い頃からの学ぶ姿勢は今でも健在です。

「退職するまでは、仕事関係の人としかお付き合いはありませんでした。しかし、今は絵画サークルの仲間や出品した絵を見てくれた人たちなどとの交流で、多くの人と関われるようになりました。何ものにも代え難い財産です」と目を細めます。

「現状に満足せずに研さんを重ね、楽しみながら絵を描き続けたいですね。外国に住んでいた頃に撮りためた写真もあるのですが、今度は外国の絵にも挑戦してみたいです」

渡邊さんの描く美しい絵のように、これからも渡邊さんは人生という名のキャンバスに色を重ねていきます。



1_最近万田坑の絵をよく描いているそうです 2_渡邊さんは「かきくけこ」を大切に筆を執ります。か：感動、き：興味、く：工夫、け：継続、こ：恋心 3_渡邊さんが所属する水彩画サークル彩の会 4_県水彩画会展で最高賞を受賞した『万田坑』